

## 「昆虫食の自動販売機?!」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーション研究所 研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka

私は生涯に3回、「昆虫食」をしたことがある。一度目は幼児の時で、アオイの葉についていたテントウムシを口に入れてしまったようだ。父はその「苦そうな顔」をわざわざ写真に残している。二度目は深谷の親戚の家で食べた「イナゴの佃煮」これは意外とおいしかった記憶がある。三度目は中国の杭州で、現地に友人に半ば無理やり食べさせられた、何かの幼虫を炒ったもの。これは飲み込むのに時間がかかった。



先日、友人に会うためにアメ横に行った。通りをまともに歩けないほどの、ものすごい人の数だった。アメ横の裏路地は、秋葉原のパーツ屋街のように、1~2坪の商店がひしめいている。まるで上海の「バツタもん市場」にまぎれ込んだような気分だった。



その廊下に自動販売機が一台置いてある。何? 「昆虫食」?! 誰もが足を止めて見入っていた。



最上段は「コオロギシリーズ」のようだ。しかも、広島・埼玉嵐山・長崎など、産地別にブランド化されている。味がちがうのだろうか? 一番右の「コオロギラーメン」というのも気になる。



その下の段は、竹虫(幼虫)・サソリ・それにタガメ! 食べないまでも、そのまま昆虫標本として理科の教材に使えるものばかりだ。



こちらは「ミックス・昆虫」というシロモノ。ミックス・ナッツのように、手のひらに出して、一気に食べるのだろうか? 価格も高いし、勇気もなくて買えなかった。将来は食糧難が深刻になって、普通にスーパーで売られているかも知れない。